

SEO

AIO

AEO

YMYL医療

専門疾患啓発ポータル A サイト (medical-info-portal.jp)

SEO / AIO / AEO 総合評価レポート

調査日: 2026-06-07

対象: <https://www.medical-info-portal.jp/> (専門疾患啓発Webサイト)

調査手法: 静的HTML (JS実行前) 取得・メタ情報/構造化データ実測

総合スコア

SEO / AIO / AEO 加重平均

39/100

SEO

検索エンジン最適化

45/100

AIO

AIクローラ対応

40/100

AEO

回答エンジン最適化

32/100

目次

- 1. 総評
- 2. 評価できる点
- 3. 技術的な根拠 (実測)
- 4. SEO評価 (45点)
- 5. AIO評価 (40点)
- 6. AEO評価 (32点)
- 7. 改善ロードマップ

0 総評

A社が運営する当疾患啓発ポータルサイトは、特定の専門疾患に関する**コンテンツの内容自体は非常に豊富**に用意されています。疾患の基礎知識や治療、日常生活のアドバイス、体験談、解説動画など、患者さんが必要とする素材は網羅されています。しかし、それを検索エンジンやAI検索に正確に伝えるための**技術的な機械可読性（マシンリーダビリティ）がほぼ未整備**という状態です。

最も深刻な問題は「**H1タグなし・canonical未設定・JSON-LD構造化データゼロ**」の3点です。これらは高い信頼性を必要とする医療YMYLサイトとして致命的な欠落で、いずれもHTMLソースに数行追加するだけで対応できるにもかかわらず実施されていません。また、HCP（医療関係者）確認用モードと一般患者向けコンテンツの混在という**対象読者の矛盾**も、AI検索が正確に情報を引用しにくい要因となっています。

強み: コンテンツ量が豊富（疾患定義・治療法・生活情報・体験談・FAQ・動画）／
lang="ja-JP"設定済み／og:url・og:title・og:descriptionは存在／Google Site
Verification済み／画像alt欠落は1枚のみ。

弱み: H1タグが完全に存在しない／canonical未設定／JSON-LD構造化データがゼロ
／og:image・Twitter Card未設定／タイトルが独自の一般名称のみで「症状・治療・
生活情報」などサイトの内容・価値を表す語句がなくCTRと検索意図への対応が弱く
A社の提供価値が活きていない／HCP認証モードと患者向けコンテンツの混在。

医療YMYL注意点: 医療情報（YMYL）サイトはGoogleのE-E-A-T基準が最も厳しく適用されます。監修医師情報がページ上に明記されていないことは、信頼性評価に大きなマイナスとなります。A社公式運営サイトとして、著者・監修者情報の構造的な明示は必須です。

◎ 評価できる点

課題は多いものの、コンテンツ面ではユーザー向けに必要な素材が揃っています。これらは構造化データを乗せるだけで大きく評価が変わる「伸びしろ」です。

疾患コンテンツが充実

「対象疾患とは?」「どのような人に多い?」「症状が起こるメカニズム」「最新の治療アプローチ」など解説ページが多数存在。AIが引用できる素材が揃っている。

体験談・動画コンテンツ

著名人を含む当事者の体験談記事や、解説用の動画ライブラリが存在。E-E-A-T（経験・専門性）の観点で非常に貴重なコンテンツ。

セルフチェック機能

セルフチェックツールが存在し、ユーザーの能動的な行動を促す設計。HowToスキーマと組み合わせるとAEO上の価値が高い。

よくある質問ページ

「よくある質問」ページが存在（別ページ）。FAQPageスキーマを追加するだけでGoogle AIリッチリザルトに即対応できる伸びしろ。

施設検索機能

全国の専門診療施設の検索機能が存在。LocalBusinessスキーマと組み合わせることでローカル検索での露出拡大が見込める。

画像alt属性は概ね整備

25枚中24枚にalt属性が設定されており、画像SEO・アクセシビリティの基本は抑えられている。

1 技術的な根拠（実測）

curlで静的HTML（JS実行前）を取得して検証。

項目	実測結果	判定
タイトルタグ	「ポータルサイト名称」のみ（8文字）	● 要改善
メタディスクリプション	存在（約75文字、HTML entities エンコード）	△ 内容は良好
H1タグ	存在しない（0個）	● 致命的
H2タグ	「疾患の基礎知識」「治療について」「生活について」等（ナビ兼用）	△ H1として機能させるべき
canonical	未設定	● 要対応

項目	実測結果	判定
og:url	https://www.medical-info-portal.jp/ ✓	✓ 良好
og:image	未設定	● 要対応
Twitter Card	未設定	● 要対応
JSON-LD 構造化データ	ゼロ (一切なし)	● 致命的
画像alt属性	25枚中1枚が欠落	△ ほぼ良好
html lang	lang="ja-JP"	✓ 良好
keywords メタタグ	存在 (疾患名, 治療, 生活, A社)	△ 現代SEOでは効果なし
HCPゲーティング モーダル	「あなたは医療関係者ですか？」の確認ポップアップが存在	⚠ 対象読者の矛盾あり
監修医師情報	ページ上に記載なし	● YMYL必須
Google Site Verification	設定済み	✓ 良好

2 SEO評価

45 / 100

良い点

- og:url・og:title・og:descriptionが設定されており、SNSシェア時の基本情報は伝わる。
- lang="ja-JP"が設定されており、日本語コンテンツとして正しく認識される。
- 画像altは25枚中24枚 (96%) に設定済みで概ね良好。
- コンテンツ量 (体験談・FAQページ・動画) は豊富で、正しくインデックスされれば評価基盤になりうる。

減点要因と改善点

重要度	項目	内容
高	H1タグが存在しない	ページ全体でH1が0個。Googleがページ主題を特定できず、評価対象キーワードが曖昧になる。「疾患名 — 早期発見・治療のための情報サイト」などのH1を設定すべき
高	canonical未設定	wwwの有無、末尾スラッシュ有無による重複コンテンツリスク。og:urlと合わせてcanonicalで正規URLを宣言すること
高	タイトルに内容・価値を表す語句がない	一般名称のみの記述で、「症状・治療・生活情報」などサイトの中身を表す語句がないため、複合キーワードへの対応が弱くCTRも低下しやすい。「疾患名とは 症状・治療・生活情報」など内容+価値を含むタイトルに改善すべき
高	og:image・Twitter Card未設定	SNSシェア時に画像が表示されない。各種SNSでのシェア時にリンクカードが生成されず訴求力が低下する
中	H2がナビゲーションと見出しを兼用	主要カテゴリのH2がナビとコンテンツの両方に出現しているため、セマンティックな見出し構造が冗長。H1設定後に整理が必要
中	HCPゲーティングと一般向けコンテンツの混在	「医療関係者向け」と注記しながら体験談・生活情報などの一般患者向けコンテンツが共存。検索クローラがサイトの対象読者を誤認する可能性がある
低	画像alt 1枚欠落	25枚中1枚のみ。対応は容易

3 AIO評価

40 / 100

AIO = AIクローラ (GPTBot / ClaudeBot / PerplexityBot 等) がサイトの内容を正しく取得・理解できるか。

良い点

- 静的HTML上にコンテンツ本文が出力されており、AIクローラがJSを実行しなくても内容をそのまま取得できる。
- 疾患定義ページ（「対象疾患とは？」等）は構造が明快で、AIが要約しやすい文章になっている。
- 運営を担うA社が、業界内において権威性を持っている（ただしコード上での明示不足）。

減点要因と改善点

重要度	項目	内容
高	JSON-LD構造化データが皆無	Organization・WebSite・MedicalWebPageなど一切未実装。AIが運営者・医療コンテンツの種類・信頼性を構造的に把握できない。機械可読性向上のための最優先項目
高	監修医師情報が存在しない	医療情報の著者・監修者が明記されていない。AI検索は医療情報の信頼性判定にE-E-A-T（専門性・権威性）を重視するため、医師名・所属・監修日の明記が不可欠
中	対象読者の矛盾（HCP vs 一般）	HCPモデルと患者向けコンテンツが共存しているため、AIが「誰向けのサイトか」を正確に判断できない。AIは対象読者が明確なサイトを優先的に引用する傾向がある
中	運営者エンティティが不明確	フッターにコピーライト表記はあるが、OrganizationスキーマもsameAsリンクもなく、AIがA社という運営組織のエンティティとの紐付けができていない
低	llms.txt未設置	AI向けのサイト要約・主要URLを提示するllms.txtが存在しない。設置でAIへの情報提供の精度向上が期待できる

4 AEO評価

32 / 100

AEO = AI検索や生成AIの「回答」にソースとして引用・要約されるための最適化。3観点で最も改善余地が大きい。

良い点

- 「対象疾患とは?」「どのような人に多い?」など、定義・疑問形式のコンテンツ構造はAEOの引用データに適している。
- 「よくある質問」ページが別途存在し、FAQPageスキーマを乗せる素材が揃っている。
- コンテンツが静的HTMLに出力されており、AIが直接文章を引用できる前提は満たしている。

減点要因と改善点

重要度	項目	内容
高	MedicalWebPageスキーマ未実装	専門情報サイトとして最も重要なスキーマ。 <code>medicalAudience</code> ・ <code>lastReviewed</code> ・ <code>reviewedBy</code> を設定することで、AIが「専門家が監修した信頼できる情報」と認識しやすくなる。YMYL評価に直結
高	FAQPageスキーマ未実装	「よくある質問」ページが存在するのにFAQPageスキーマが未設定。既存Q&Aにマークアップを付けるだけでAI回答への採用が強く期待できる。即効性が高い
高	H1がなく定義文が不明確	「対象疾患とは〇〇である」という端的な定義文がページ冒頭に明確にない。AIがFeatured SnippetやAI Overviewで引用するためには、冒頭に結論を置く文章構造が有効
中	セルフチェック手順のHowToスキーマ未実装	「セルフチェックをしましょう」というコンテンツがあるにもかかわらずHowToスキーマがない。特定のセルフチェッククエリでFeatured Snippet獲得の機会を逃している
中	体験談がマークアップされていない	ユーザー体験談が存在するが <code>Review</code> や <code>Person</code> スキーマで構造化されていない。AIが「実際の当事者の声」として引用しやすい形にできていない
低	speakableスキーマ未実装	音声検索・スマートスピーカーへの対応。優先度は低いですが、「〇〇とは何ですか」のような音声クエリへの対応として検討余地あり

5 優先度つき改善ロードマップ

いずれも見た目を大きく変えずに対応可能。即効性の高い順。

優先	施策	主に効く観点
----	----	--------